

第18号

令和7年3月発行

ガクチキ



ガク チキ
学校と地域をつなぐ教育広報誌



特集

- 校長先生インタビュー
- 亀田親子校長先生に聞きました 緑野小のこと
- 指導主事ってどんなことをしている人？

かめだちかこ

亀田親子校長先生に聞きました

緑野小のこと



児童が毎日豊かな学校生活を送れるよう、緑野小学校のリーダーとして活躍する亀田校長先生。今回は亀田校長先生へのインタビューを通じて、緑野小学校ならではの魅力や特色を紹介させていただきます。

ブラスバンド活動

緑野小は、二小と七小が合併して設立した学校です。そこから引き継いだ鼓笛やブラスバンド活動は、6年生全員が行う緑野小ならではの大きな特色になります。様々な経験を通じて協力・協働の心を育むため、狛江市民まつりのパレードをはじめ、東京消防庁音楽隊とのコラボレーションコンサートや多摩地区小学校管楽器演奏会など、演奏できる場を積極的に設けています。



東京消防庁音楽隊コラボレーションコンサート

えのき学級



えのき学級のみんで野菜作りに挑戦!

えのき学級は、知的障がいの固定学級と呼ばれる特別支援学級です。個に応じた指導に基づき充実した学びを行っています。その一方で、通常学級との交流は積極的に行っていて、児童みんなと一緒に学べるよう、校外学習や体験学習などの行事は一緒にやることが多いです。

また、毎年、調布特別支援学校の3年生が緑野小に来てくれて、えのき学級も含めた全3年生が一堂に会して交流を行っています。えのき学級、通常学級、特別支援学校…、それぞれの枠を飛び越えて、みんな一緒に関わる、みんなで共に生きていく、そんな取組を進めています。これこそまさに共生社会の実現、そういう素晴らしい場面が見れると思います。

緑野小の学年経営

「みんなでみんなを育てる」という経営方針を立て、学級担任ではあるけれども学年担任の意識を持って、取り組んでいます。学年同一歩調です。掲示物もほぼ一緒です。学級によって差がないので保護者の方も安心します。中には、自分の学級担任だけでなく、学年担任の先生にも相談したいという保護者の方もいます。教科担任制や交換授業もあり、そこに学年担任の先生もいるので、子どもたちに関わるのは学級担任だけではありません。そのため、先生たちにも連帯感(絆)が生まれ、和を大切にしながら学年経営に取り組んでいます。

受け継がれる伝統

ブラスバンドのマーチングは、6年生だからできることですが、1年生の頃から6年生の姿を見てきているからできるのだと思います。そのため、「見通し」を大事にしています。例えば遠足でも、上級生が下級生を連れて行く意識をもたせています。そうすることによって、来年の自分が何をやるのか、どうなればいいのか、「見通し」が生まれます。みどりンピックでも、5年生は毎年ソーラン節を披露しますが、それを6年生が教えます。4年生が取り組む縄跳びを5年生が教えます。このように、さまざまな場面で、必ず上級生が下級生に教える機会をつくり、上級生の姿(モデル)を見せています。

オープンスペース仕様の教室

学年経営にあたって、オープンスペースがとても功を奏しています。隣の学級の先生がすぐ隣の教室に行きやすい。子どもたちも、学年、学級を越えた交流がしやすい。学年経営では、垣根を作らないようにしていますが、構造的にもそうになっています。子ども同士が机をつけなくても勉強できるスペースがある。死角ができないので、ぱっと見て二教室分ぐらい子どもの姿が見える。子どもたちも見られることに慣れるし、隠すことをしない。心にゆとりもできる。先生たちも、教室に入って欲しくない先生じゃない。子どもも、先生も、教室も、みんなオープンなんです。

みどりンピック

体育学習の発表の場として、表現や競技種目を意図的に考えて行っています。そのため、「体づくり運動」など、学習の領域をプログラムに明記しています。そこでは、みどりンピックに出る子どもたち全員が選手であり、勝ち負けではなく、「みどりンピアン」として自分の力を最大限発揮すること、みんなで協力する力を高めることを目標に取り組んでいます。もちろん団体競技の中では、勝ち負けは出てきますが、自分たちのチームの記録を伸ばすことなどを目指しています。





地域との関わり

私が校長に就任したときはコロナ禍の真っ最中で、地域の方との交流も難しく、どんな方が住んでいて学校を支えているかを知らないまま約2年過ごしました。コロナが緩和されていく中で、本当に少しずつ探るように、地域との関わりを再構築していきました。やりたいことはどんどんやってみる。今、緑野小には応援団がいっぱいいます！

●地域と力を合わせる

玄関に、ダウン症の書家として活躍する「祈りの書家」金澤翔子さんの作品を飾っています。

縦1m×横4mの大きな作品で、地域の皆さんが展示のために一生懸命動いてくださいました。予想額を超える寄附を集めてくださり、立派な額縁を寄贈いただきました。作品の横の寄附者の名前を書いた芳名板も、素晴らしいヒノキの一枚板を関係者の方からいただき、本校の教員が書き入れました。学校だけではできないことも、地域と一緒に力を合わせればできるということを実感しています。



正面玄関に飾られている金澤翔子さんの作品



ポニーとふれあう子どもたち

●ポニーとのふれあい

週に1回、福祉ネット「ナナの家」から「ミント」と「プリン」というポニーが緑野小までトコトコ歩いてきてくれます。給食のにんじんの食べられない部分を餌としてあげ、美味しく食べたポニーからはフンが出ます。フンは「ポロ」と呼ばれ、近所の農園の肥料になります。

こうしたフードリサイクルの循環は、狛江市環境表彰制度で認められ、ナナの家と一緒に「優秀賞」を受賞しました。ポニーは、子どもたちの教材にもなってくれています。

亀田校長先生自身について

●出身

実は調布市の仙川出身です。だから、調布市に近い狛江市のことも昔から馴染みがあったので、緑野小学校への赴任が決まった時はうれしかったです。

●好きなことや趣味

かなり多趣味ですが、一番好きなのは水族館に行くことです。静岡県沼津市の「あわしまマリパーク」が、特におすすめです。昨年一度閉館してしまったのですが、その後地域の皆さんや守りたいという方々の熱い思いで復活した水族館で、手づくりのアットホームな匂いがするとても素敵なおとこです。何がきっかけで水族館が好きになったのか、実は私もよく分からないのですが、姉

の話だと、海や海に住んでいる生き物のテレビ番組を小さいころからずっと見ていたらしいです。サメやマグロとか…、大きい魚が好きなんです。熱帯魚も好きで、自宅で飼っていますよ。

●音楽が大好き

音楽の授業が昔から大好きでした。3歳ぐらいから中学校1年生までピアノを習っていたんです。通っていたのが本格的なプロの音楽家を育成する教室で、徹底的に鍛え上げられて…。だから、小学校1年生の時に、担任の先生がドミソでしか伴奏を弾けなかったのを「気持ち悪いから歌えない」と、とても生意気なことを言ってしまって、逆に音楽の成績が下がったなんてこともありました(笑)。今では、様々なジャンルの音楽を聴いています。

可能性を広げる指導

学級担任を受け持っていた時は、まだ学芸会があった時代で、劇の時には必ずミュージカルにしていました。どうしても「ライオンキング」をやりたくて、子どもたち用に全部編曲をして…。全部伴奏で生演奏じゃないと、セリフのタイミングが上手く合わないんです。劇団四季

を意識し、本格的なつくりにはしていましたね。その影響を受けたのか、教え子で「どうしても劇団四季に入りたい!」って、家族の反対を押し切って、高校から大学に行かず、舞台俳優の道に進んだ子がいます。そのご両親に会うと「先生の責任は大きいですよ」なんて冗談まじりに言われてしまいます(笑)。何が正解というのは一概に難しいものだと思いますが、子どもたち一人一人の可能性を広げるような指導を昔から心がけています。

児童たちへのメッセージ



かめだ ちかこ
亀田 親子 校長先生

自分の人生は自分のものであって、最後は自分で決めるしかありません。自らの力で人生を切り拓いていける…。そういう力を身につけてほしいですね。とは言え、何事も自分の力だけで進められるものでもありません。そのためにも、他の人とのコミュニケーションや関わりは欠かせません。まずは自分を大切にしてほしい。そうすれば、他の人も大事にできるのだと思います。自分を愛する人が、他の人を愛することができて、そしてみんなからも愛される…。そんな優しさあふれる大人に育ってほしいと願っています。

<主な経歴>

●昭和63年：多摩市立小学校に着任 ●平成4年：中野区立小学校へ異動 ●平成6年：調布市立小学校へ異動 ●平成28年：調布市立第三小学校副校長に着任 ●平成31年：調布市立深大寺小学校副校長に着任 ●令和2年：狛江市立緑野小学校校長として着任

平成17年4月に開校した緑野小学校は、開校20周年を迎えました。



令和7年1月25日(土)、記念式典を執り行いました。

指導主事って どんなことをしている人？

先生の先生



ひらい まさと
指導主事 平井 政知 先生

皆さんは「指導主事」をご存知ですか？

指導主事とは、教育課程、学習指導、生徒指導、教材などの学校教育について、教員に助言と指導を行うために教育委員会事務局に置かれる職とされています。狛江市教育委員会の指導室には2人の指導主事と統括指導主事、指導室長がいます。実際に学校や地域とどのように関わっているのか、指導主事の平井先生に聞いてみました。

普段の仕事

●指導主事の日

一日ずっと指導室にいることは少なく、学校を訪問していることが多いと思います。指導室にいる時は、基本的な事務処理や書類作成、提案、会議をしています。その間に学校から連絡があり困りごとや相談ごとを受けると、その時はすぐに学校に行き対応しています。

●学校の相談ごととは

例えば私は今年度、若手教員の育成を担当していますが、若手教員が考えている授業を一緒に見てくれないかなど、授業に関わることでアドバイスすることが多いです。その教員の特徴を活かしてこんなことができるのではないかと提案したり、自分が教員時代のことを思い出



指導室訪問

教育長、教育部理事兼指導室長、統括指導主事、指導主事でそれぞれの学校に年に1回ずつ訪問して、校長先生から学校経営方針や進捗状況の説明を受け、授業を観察しています。午後は研究授業といって1人の先生が授業しているところを全教員で参観します。子どもたちの下校後にその授業について話し合っ、指導主事が指導・講評をして1日を振り返るということもしています。

学校運営をチェックするというよりも、一緒によさを見つけたら、頑張っているところを価値付けするという面が強いですね。

してこんなことをやっていたとか、そういうことを意識して話をしています。ただ、私は小学校籍なので、中学校の教員への指導・助言は難しいと感じますね。自分の経験から自分だったらこうするという視点で授業を見るようにしています。

一言メモ

基本的に小中関係なく授業論があります。子どもの発達の段階を考慮しつつ、指導主事はその授業論に基づき指導・助言するので、小学校でも中学校でも教科等が違っていても問題はありませぬ。

●指導主事での役割分担

指導主事2人で例えば研修だと若手担当と中堅担当で分けています。校務分掌のことだと教務と生活指導で分けています。

担当している分野ごとに指導室で方針を示す他、東京都で決められたものをいかに学校に伝えるかというのが重要な業務です。

一言メモ

狛江市の指導主事は2人だけなので、多くの教育課題を半分ずつ担っています。



一言メモ

指導室訪問とは、学校の取組を省察し、質の高い教育が展開されるよう再確認し、学校の中での合意形成やレベルアップをしてもらう機会です。

かけはしプロジェクト

●かけはしプロジェクト

かけはしプロジェクトは狛江市独自の取組で、テーマを決めて小学校と中学校が連携して研究を行います。昨年度と今年度、体力向上というテーマで研究に取り組んでいて、2月の終わりに最後のまとめの発表会を行いました。そこに向けて先生たちと協力しながら、どうやって体力を向上させるかを連携して考えています。

今回の体力向上というテーマは、コロナの影響もあって子どもたちの体力が低下気味であり、家にこもってゲームをしてなかなか外に出て遊ばないという課題があり、そこにターゲットを絞って決めました。

●かけはしプロジェクトの進め方

かけはしプロジェクトでは、基本的に学校から担当者1人を選んでもらい、そのメンバーでテーマについて考えます。例えば小学校でここまででは絶対やりたいとか、中学校側として小学校はここまでやってくれたらこうやってもらっていい、という内容を話し合っています。

今年の具体的な取組として、中学校の先生が小学校の

体育に入って一緒に教えたり、小6と中1が同じ会場で一緒に交流しながら体を動かしたり、オンライン上での交流も行っています。オンライン上での交流は保健の取組でしたが、中学生が小学生に睡眠は何時間とれるとよいか、食事はバランスよくとった方がよいというアドバイスを動画で撮って、それを小学生が見るということを行いました。

●小学校と中学校でのグループ分け

中学校区のゾーンごとにチームを組んでいます。三中ゾーンは特に連携して行っています。元々和泉小の子どもたちはほとんどが三中へ行くので、繋がりはかなり深いと思います。今回の体力向上で言えば、三中ゾーンの取組として長なわを小学生と中学生と一緒にいき、中学生になったらこんなことできるんだぞと示したりしています。

2月に行われた発表会では一中ゾーンがメインとなって、中学生が考えた準備運動を小学校の体育の授業に取り入れたり、一中と緑野小の先生が一校で授業に加わって、学校の壁を越えて子どもたちと一緒に授業をしたりすることを考えています。

指導主事のやりがい

元々若手教員を育成したいという思いが強くあったので、それに関わっているということがやりがいです。若手教員と関わりをもって、授業参観や研修を行っています。若手教員が頑張っている姿を見たり、授業のこんなところがうまくいきましたという報告をもらったりすると、やってよかったなと思います。後は、指導主事になって4年目になり、今まで関わってきた先生たちがいろいろなところで活躍するようになった姿を目にすると、育成に携われてよかったと思いますし、そういう繋がりを大切にしたいと思っています。

狛江市の強み

狛江市は教育委員会と学校や、学校同士の距離感が近いので、その学校の先生だけが指導するのではなく、いろいろな学校の先生が関わりながら子どもたちを育てていくところが1つの強みだと思っています。そこが他の自治体と全然違うと思います。狛江市は本当に距離感を大切にしているので、何かあればすぐに学校に行きます。私も意識して沢山学校に行くようにしています。コンパクトシティのよさですね。

指導主事をやっていて思うこと

○今の仕事で楽しいこと

やることは終わらないほど沢山ありますが、本当に日々充実していると思います。元々教員時代に考えていた指導主事像として、「先生たちと沢山関わって授業や学校をよくする手助けがしたい」、「学校を支えられるような存在になりたい」とずっと思っていました。今自分が支えることができるかは分かりませんが、学校のためになるようなことを意識して仕事をしているところには、充実感や楽しさをすごく感じています。

○これからの狛江市の学校

私が教員として狛江市に来た時の子どもたちの印象として、すごく素直だと思いました。先生たちに言われたり指示されたりしたことに対して、すごく素直に、まっすぐにそれを具現化しようとしてくれるというよさがあ

ります。一方で、自分で何かを考えて進んで取り組むという面に関しては課題があると考えているので、自分たちのアイデアをもって積極的に物事に取り組むようになってほしいと思っています。そのためにも先生たちの指導や行動を変えていかなければならないと考えているので、その部分についてこれからも指導、助言をしていきたいと思っています。



教育委員会からのお知らせ

「音楽の街—粕江」子どもたちが楽器を楽しめますように!



本寄附金を活用し、令和6年度は粕江第二中学校でフルートを購入することができました。

皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

新しいフルートは、吹奏楽部の練習や演奏に大いに役立っています。

こまえ応援寄附金（ふるさと納税）の使いみち項目に、小中学校の楽器整備への活用を設けています。

ぜひ、皆様からのご協力をお願いいたします。
（※粕江市在住の方からの寄附に対しては、返礼品を送付することができませんので、ご了承ください。）



詳細は市のホームページをご覧ください



■ 粕江市では、「地域とともにある学校」を目指して、全小中学校でコミュニティ・スクールを導入しています。

今号で特集している緑野小学校は、一中ゾーンに所属しています。

一中ゾーンでは、地域の方や保護者、校長等で組織する会議に、各学校の教員も参加し、地域全体で小中学校9年間を通じた学校教育のあり方について話し合いを重ねています。

詳細は教育委員会のホームページをご覧ください



コミュニティ・スクールとは

学校をとりまく地域や家庭すべての方々に関わっていただく仕組み。学校が中核となり、学校運営への地域住民等の参画を促進し、特色ある学校づくりを進めます。

粕江市では、中学校区を中心としたゾーンごとに取組を進めています。

各ゾーンと所属校

一中ゾーン	二中ゾーン	三中ゾーン	四中ゾーン
粕江第一中学校 粕江第一小学校 緑野小学校	粕江第二中学校 粕江第三小学校 粕江第六小学校	粕江第三中学校 和泉小学校	粕江第四中学校 粕江第五小学校 (緑野小学校)

■ 教育委員会の会議（令和6年9月～令和7年3月）

主な議案

- ・粕江市民センター新名称及び図書コーナー愛称公募選定審査会設置要綱
- ・第4期粕江市教育振興基本計画(粕江市教育大綱)(素案)に対するパブリックコメント及び市民説明会の実施について
- ・粕江市立小中学校給食代替者補助金交付要綱の一部を改正する要綱
- ・粕江市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則

主な報告事項

- ・令和6年度「粕江市学習状況調査」の結果及び「全国学力・学習状況調査」の結果について
- ・公民館居場所事業「夏休み子ども・中高生スペース」の報告について
- ・令和6年度部活動地域連携推進事業の進捗状況について
- ・粕江市民総合体育館改修工事に伴う休館期間について
- ・令和6年度東京都教育委員会職員表彰被表彰者の決定について

粕江市教育委員会

発行者

〒201-8585 粕江市和泉本町一丁目1番5号
TEL 03-3430-1111
<https://www.komae.ed.jp>

こちらからもガク★チキが閲覧できます!

粕江市教育委員会
ホームページ



こまえ電子図書館

